

2024年度 年次報告書



特定非営利活動法人
河北潟湖沼研究所

Kahokugata Lake Institute

河北潟湖沼研究所のビジョン

＜私たちが目指す河北潟の姿＞

流域全体が無農薬となり、ヤマトシジミ、ウナギなどが生息する河北潟が復活し、潟漁が営まれて食卓も豊かになります。

水草が増えて水も透明になり、清湖のきれいな水と自然が取り戻された流域にはいろいろな地場産業が発展しています。

「河北潟」は地域に活力を与え続けます。

河北潟湖沼研究所のミッション

- 1 潟の再汽水化と自然流下の復元
- 2 かつての潟の水質と生物多様性に近づけるための流域管理の視点からの農業を使わない新しい農業の確立
- 3 泳げる河北潟・食べられる河北潟のために内水面漁業の復活
- 4 地域産業において潟の自然環境が活かされるための河北潟ブランドの確立とエコツーリズムの展開
- 5 林業の活性化による流域全体の健全化
- 6 コミュニティによる流域管理の手法の確立

ビジョンの実現に向けて、課題を達成するための研究をおこない、成果を検証しながら方法を構築することをミッションとしています。また、ビジョンの実現のためには行政機関や地域住民、産業の役割が必須であることから、多くの関係者が連携し、役割を分担してビジョンが実現できるよう呼びかけや調整に取り組んでいます。



ご挨拶 ― 明日と未来を繋ぐ仕事

能登半島地震では、内灘砂丘裾部での側方流動を伴う大規模な液状化、干拓地堤防の決壊、大根布の防潮堤の損壊、上下水道などのインフラの崩壊など、住宅や道路、そのほかの社会基盤が大きなダメージを受けました。震災から1年が経ち、これらの応急復旧から将来を見据えた復興フェーズが移っています。損壊した住宅の解体や大規模な本格復旧事業も進んでいます。

2024年6月に石川県の復興プランが策定され、その後、内灘町やかほく市でも復興計画が策定されています。共通する課題として、被災者の生活再建に向けた支援、液状化対策と土地境界の画定、道路などのインフラの復旧・整備が挙げられています。同時に長いスパンでのコミュニティの再建や生業の再建の課題も提起されています。また、創造的復興の視点から多様な主体が参加する復興の重要性が指摘されています。

しかしながら、復興事業の現場では、まずはインフラの復旧と生活再建が緊急かつ切実な課題となります。元の姿に戻すこと、さらに災害に対して強靱な基盤整備を付加することのみが前面に出てきます。そのため、長期的にみた地域の持続可能性や自然環境資源の保全といった観点が軽視されがちとなります。今回の地震被害の背景には、高度経済成長以降、河北潟と周辺エリアで進められてきた大規模な土地の形状改変を伴う開発と、土地利用があります。そして長期的な見通しを十分に持たないまま、その土地改変と土地利用の延長線上でのさらなる

インフラ整備と既存インフラの維持・管理を進めてきたことが挙げられます。そうした土地改変が進められた場所で、被害がより大きかったことが分かってきています。

切実な明日の復興の取り組みが進んでいる今だからこそ、原状回復だけでない長期的な見通しを持った合理性のある基盤整備や、新しい土地利用の視点を加えた総合的な復興を進めることが重要となっています。

河北潟湖沼研究所は、河北潟と周辺地域の環境保全と自然再生、持続可能な地域社会の実現に取り組むNPOです。今回の地震災害からの復興においても、復興事業の中での自然環境の保全対策や、グリーンインフラの視点からの自然再生を含む自然環境資源の防災への活用を進めていくことを提案してきました。切実な問題と長期的な視点との整合性を現実の復興事業の中で図っていくことは容易ではありません。しかし、地域に根ざしたNPOとして、被災地を中心とした地域の明日の課題と、科学的予測に基づいた100年後の未来の課題を、地域の方々にわかりやすく提示し、多様な地域主体を繋ぎ、復興を通じて持続可能な地域へと近づけていくことが私たちの使命と考えています。地域の多様な主体の片隅にいる小さなNPOに過ぎませんが、地域の一員であることを自覚し、多くの関係者のご意見を伺いながら、当NPOを支えていただいている皆様のご理解とご協力のもとに、できる限りの努力を続けていきたいと思ひます。引き続き皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

河北潟を再生したい！

ビジョン実現にむけた河北潟及び大野川での調査をすすめるほか、能登半島地震による被害状況の調査プロジェクトをすすめています。また河北潟の課題や展望を話し合い、学ぶ場を作っています。

課題

- 河北潟の水がなかなかきれいにならない
- 流域住民と河北潟との接点が少ない
- 災害復興の中での自然再生

取り組み

- 河北潟や大野川での基礎調査、能登半島地震による環境影響調査の実施
- 流域連携をテーマにしたシンポジウム、環境影響調査に関する中間報告会の実施

2024年度の成果

- 河北潟流域シンポジウムに68名参加
- 能登半島地震による自然環境への影響調査中間報告会に75名参加



河北潟正面堤防付近の様子(2024年7月5日)。



中間報告会の様子(2024年12月1日)。

第8回河北潟流域シンポジウム実施

震災後の自然再生 ～住民や多様な関係者の連携による取り組み

会場：石川県女性センター大会議室+オンライン

2025年2月16日、河北潟流域シンポジウムを開催しました。東日本大震災被災地での復興や環境保全の事例、河北潟やその他地域での自然再生の取り組み事例について学び、能登半島地震後の河北潟流域での自然再生の進め方や、課題について話し合いました。

*河北潟流域シンポジウムの実施にあたり、ドコモ市民活動団体助成事業による助成金を活用しています。



< プログラム >

主催者挨拶・趣旨説明

永坂正夫(河北潟湖沼研究所所長・金沢星稜大学教授)

基調講演

『エコトーン・里浜の視点を活かした陸水境界域の復興デザイン』平吹喜彦(東北学院大学・教授)

事例報告

(仙台市岡田・新浜地区)『被災地の暮らしと環境保全』遠藤源一郎(遠藤環境農園)

(河北潟流域)『河北潟クリーン作戦、特に震災後の取り組み』川原奈苗(河北潟湖沼研究所)

話題提供

『多様な連携の仕組みの中で取り組まれた災害復興の中での自然再生の事例』入江 潔(アジア航測株式会社)

ディスカッション

『河北潟流域の災害復興の中での住民の役割と多様な連携の必要性』コーディネータ 高橋 久

震災調査プロジェクトチーム合同調査

2024年1月1日に発生した能登半島地震により、河北潟湖岸域でも液状化による家屋の倒壊や湖岸堤防の沈下が広域で確認されました。河北潟湖沼研究所では震災直後に調査チームを結成するとともに、日本水環境学会汽水域研究委員会の協力を得て能登半島地震の河北潟と周辺域での被害状況と被害要因、および湖沼への影響に関する調査プロジェクトを立ち上げました。これまでに、震災後の湖岸堤防の断面測量、植生状態のモニタリング調査、堤防が決壊した場合を想定した水質シミュレーション等を実施しました。現地調査は主に河北潟湖沼研究所のメンバーが行い、汽水域研究委員会のメン

バーは技術指導を担っています。現地の情報共有のために、汽水域研究委員会の山室真澄氏、伊豫岡宏樹氏、井上徹教氏にお越しいただき、8月5日～6日に合同で現地を巡検しました。内灘砂丘沿いや干拓地堤防、金沢港防潮水門付属防潮堤防、そして金沢港までの視察を行いました。被害について情報共有し、原因についてや調査方法について話し合いました。



金沢港防潮水門(2024年8月6日)。

能登半島地震による河北潟及び周辺域の 自然環境への影響調査プロジェクト 中間報告会

会場:金沢市近江町交流プラザ集会室+オンライン

2024年12月1日(日)9時50分～17時30分、震災調査プロジェクトの中間報告会を開催しました。12題の講演と発表が行われ、また河北潟湖沼研究所より、復興事業において配慮すべき事項として、①正面堤防の地先におけるヨシ群落の保全、②干拓地に生じた湿地を活かす、③大野川の堤防地先におけるヨシ群落の再生、④大野川における塩分濃度の低減の4つを提言しました。さらにディスカッションや質疑応答で震災の影響の捉え方や今後求められる再生のあり方、提言内容等について議論を深めました。引き続き調査をすすめ、より実効性の高い提言にしていきたいことを展望し、中間報告会を終えました。

*中間報告会の実施にあたりタカラ・ハーモニストファンド及び日本水環境学会からの助成金を活用しています。

< プログラム >

第1部 震災による河北潟の自然環境への影響と今後の自然再生について

特別講演 『内灘砂丘で何が起きたか』

目代邦康(東北学院大学地域総合学部)

『震災被害を拡大した土地利用』高橋 久(河北潟湖沼研究所、以下湖沼研)

『震災の鳥類への影響』中川富男(山科鳥類研究所協力調査員)

『河北潟で起こったことが他の地域で起こったらどうなるか』

山室真澄(東京大学・新領域)

パネルディスカッションと質疑応答 進行:高橋 久

第2部 調査研究の中間報告会

【基調講演】『河北潟における震災被害が示すこと』

山室真澄(東京大学)

『内灘砂丘の液状化・側方流動と地下水の関係』目代邦康(東北学院大学)

『河北潟干拓堤防の損壊に伴う植生の変化』川原奈苗(湖沼研)

『低空航空写真を用いた湖岸堤防の被災状況解析』伊豫岡宏樹(九州産大学)

『内灘砂丘湧水に関わるクロズナ層の透水係数』永坂正夫(金沢星稜大学)

『河北潟シミュレーションモデルの構築』井上徹教(港湾空港技術研究所)

『河北潟西部湖岸堤防及び大野川右岸堤防への影響』福原晴夫(湖沼研)

『河北潟における防潮水門による水位操作と電導度の変化』奥川光治(湖沼研)

まとめとディスカッション(復興事業への提言) 進行:永坂正夫(金沢星稜大学)

■ 調査・研究に参加しよう

河北潟湖沼研究所は、研究者はもちろん、市民、企業、農家、学生、どのような方でも「研究したい」という方の参加を歓迎します。ご興味のある方はお問い合わせください。

■ 機関誌「河北潟総合研究」発行公開

河北潟や地域の自然、環境、文化等に関する研究成果の発表の場として、また地域環境保全・地域振興に関する学際的・総合的な研究交流の場として機能することをめざし、「河北潟総合研究」を発行しています。ホームページで公開する他、頒布もしています。

農地と生きものをまもりたい!

課題

- 河北潟地域の田んぼの生きものが減少
- 流域の農地で使われる肥料や農薬が河北潟の水質汚濁の要因となっている

取り組み

- 必要のない農薬を使わない農地を増やし、そこでできたお米を販売
- 内灘砂丘地の畑で農薬、化学肥料を使わない野菜作りとその販売

2024年度の成果

- 生きもの元気米 定期購入者の増加
- 無農薬野菜栽培の継続



田んぼの生きもの調査は、専門家に加え、一般参加者も募り実施しています(2024年5月25日)。

生きもの元気米

河北潟周辺には田んぼがたくさんありますが、昔と比べ生きものの種類も数も減っています。私たちはその重要な原因として①農薬の空中散布+浸透性殺虫剤(ネオニコ含む)、②畦の除草剤散布があると考えています。そこでこの二つを実施しないことを条件に栽培する「生きもの元気米」を2014年から続けています。契約農家や当研究所が生産し、研究所が各田んぼで生きもの調査を実施、田んぼ一枚ごとに生きもの元気米認証を行い販売しています。調査結果は米袋やホームページ等で紹介し、生産地と離れた場所にいる消費者にも農地の環境や生物について伝わるよう工夫しています。作る人、食べる人、田んぼの生きもの、みんなが元気になることを目指しています。

圃場面積

2024年
53,189m²

* 稲作田12枚+蓮田(レンコン)6枚

生産量

2024年
4.6トン



すずめ野菜

すずめ野菜は河北潟と日本海のあいだにある内灘砂丘の畑で、農薬や化学肥料を使わずに野菜を栽培する取り組みです。砂丘地で農薬や肥料の量を減らすことは、砂丘を浸透して河北潟に流れ込む水の負荷を抑え、水質改善にもつながります。2024年度は春から夏にかけて、インターンシップやボランティアの希望者が複数参加し、にぎやかに畑作業を行いました。参加者からは、野菜づくりの大変さを実感した、栽培の工夫や手順を学べてよかった、生きものつながりの大切さを改めて感じた、といった声が聞かれました。



持続可能な農業をまもりたい！

課題

- 農家の高齢化や大規模農業化で、農地に関わる人が減り、農地の細やかな手入れが難しくなっている。

取り組み

- 農地と市民をつなぐ農薬不使用の米作り
- 農家、企業、市民、NPO協働で水路保全活動
- 金沢市中心部と河北潟の農地をつなぐマルシェの実施

2024年度の成果

- 七豊米田んぼ作業にのべ102人参加
- 外来植物除去活動にのべ107人参加
- ゆうぐれ金曜マルシェ35回実施



七豊米

2012年より農薬・化学肥料を使わずに栽培している田んぼの取組です。田植えや観察会等体験イベントのほか、苗代作り、除草等様々な農作業をボランティアの皆様と共に行っています。田んぼの環境や生きものを守り、昔ながらの米作りの技を伝えるため、おいしいお米を届けるため、活動しています。2024年度は田んぼにコウノトリがやってきました。

外来植物除去活動

実施：河北潟地区外来植物対応方策検討会、河北潟の水辺を守り隊、グリーン・アース農地・水・環境保全組織、協力：河北潟湖沼研究所

河北潟周辺の農地の水路では、外来植物チクゴスズメノヒエにより水の流れがふさがれる、在来植物の生息場所が奪われるなどの問題があります。この除去活動を他団体と協力して実施しています。当団体は実施場所の選定や記録、当日の運営等を行っています。2024年度は地元の農家、企業、教育機関、市民が参加し、チクゴスズメノヒエ除去活動を行ったほか、ヨシ群落に入るセイタカアワダチソウの除去活動なども行いました。



金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェ

金沢駅西イベント広場で、すすめ野菜や生きものの元気米をはじめ、環境に配慮して生産した農産物を、金沢駅周辺の住民に届ける場です。2024年度は4月から12月まで、ボランティアの方にご協力をいただきながら、毎週金曜に開催しました。

募集中！

- 生きものの元気米を栽培いただける農家
- 農作業、生きものの調査、マルシェ開催にご協力いただけるボランティア



河北潟流域全体の保全を進めたい!

課題

- 流域単位の取り組みが遅れている、流域連携の仕組みがない

取り組み

- 河北潟流域自然再生協議会準備会の設立に向けた取り組み
- 吉倉交流館の運用、上流域での活動展開
- 流域保全を担う人材育成のため「ハッタミミズ調査隊」の活動実施
- 河北潟流域ごみ拾いの実施
- 流域の他団体と協力した活動の実施

2024年度の成果

- 河北潟流域自然再生協議会準備会を1回実施、32人参加
- 上流域のあらたな農地で活動開始
- ハッタミミズ調査隊の活動にのべ153人参加
- 流域のごみ拾い全体で4927kgのごみ除去
- 河北潟クリーン作戦に840人、河北潟自然再生まつりに250人参加



吉倉での米作り(2024年5月11日)。



ハッタミミズ調査隊活動(2025年5月3日)。



河北潟自然再生まつりでハッタミミズ調査結果の発表(2024年10月13日)。

河北潟流域自然再生協議会の設立に向けた取り組み



河北潟流域で連携して環境保全活動を行う仕組みとして、「河北潟流域自然再生協議会」の設立にむけた取組を地域の他団体の皆様と協力して進めています。当団体は事務局として様々な調整や会議の運営等を行っています。2024年度は準備会を1回開催しました。地域活性化部会では金沢市花園町で外来種に関するイベントを行った他、自然再生協議会全国会議に出席し、活動報告を行いました。

*活動にあたり、ドコモ市民団体活動助成の助成金を活用しています。

吉倉交流館

2023年より、河北潟の上流域にある津幡町吉倉で古民家を「吉倉交流館」として活用を始めました。インターンシップ、ボランティアや調査活動等に参加される方の活動拠点として運用しており、宿泊もできます。河北潟とつながる川の上・中流域との交流をすすめ、流域の課題解決に向けた活動拠点となることを目指しています。

2024年度は、吉倉区で新たに田んぼをお借りし、農業・肥料不使用のお米作りに取り組みました。休耕地の畑の再生にも取り組んでいます。

*活動にあたり、LUSH Re:Fund Local助成金を活用しています。

ハッタミミズ調査隊

次世代の環境保全活動を担う人材育成のため、子どもたちが興味をもちやすいハッタミミズに着目し、「ハッタミミズ調査隊」を結成し、活動をすすめました。田んぼでのハッタミミズ調査をはじめ、かつて河北潟でハッタミミズをエサとしてウナギ釣りが行われていたことに着目した釣り体験、ハッタミミズについて学ぶための琵琶湖博物館へのバスツアー、調査結果をまとめイベントで発表する活動等を行いました。調査、体験、まとめと発表と、一連の活動を体験いただきました。

*活動にあたり、サンライズ財団環境助成金を活用しています。

河北潟流域のごみ拾い

河北潟流域でのごみ拾いの実践とともに、ごみの状況を調べ、啓発活動等も行っています。2024年度は流域各地でのごみ拾い活動を促進するため、「河北潟流域ごみ拾いラリー」と題して活動を実施しました。8月には河北潟カヌークラブのご協力のもと、カヌー体験を兼ねた水上からのごみ拾いを、1月には1日で流域の複数地点でのごみ拾いと自然観察をあわせて行うバスツアーを実施しました。

*活動にあたり、エフピコ環境基金助成金を活用しています。



他の団体と協力した活動

河北潟クリーン作戦

主催：河北潟クリーン作戦実行委員会
事務局：河北潟湖沼研究所

毎年4月に行われる河北潟の一斉清掃活動です。当団体は事務局として実行委員会の開催、関係機関との調整や連絡、広報活動、当日の実施運営、記録、報告等を行っています。2024年は4月21日に実施し、840名の方に参加いただき、4.3トンのごみが回収されました。

河北潟自然再生まつり

主催：河北潟自然再生まつり実行委員会
共催および事務局：河北潟湖沼研究所

河北潟地域で環境保全活動を行っている団体が集まり、活動PRと共に様々なプログラムを実施します。2024年は10月13日に実施し、250名に参加いただきました。当団体は実行委員会の開催、共催団体との調整や広報等を行い、当日は複数のプログラムを実施しました。

環境教育や体験プログラム実施

河北潟流域の自然環境を題材に、企業や団体等の環境教育や体験プログラムの実施、受け入れを行っています。2024年度はジョンソン・エンド・ジョンソングループの皆様を対象とした環境教育プログラムを実施しました。河北潟流域の自然環境や能登半島地震被害についてのレクチャーを行ったほか、現地視察、農作業体験、田んぼの生きもの調査等を体験いただきました。



ご支援、ご寄付ありがとうございます

河北潟湖沼研究所の活動は、たくさんの方々のご支援、ご寄付で成り立っています。
活動の実施や運営にあたり、たくさんのボランティアの皆様にご協力をいただいております。
さまざまな形で温かいご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

■ ご寄付をいただきました

- 個人及び団体のみなさまより 計753,763円

■ 助成金を活用させていただきました

●LUSH Re:Fund Local

活動名：生物多様性を保全したリジェネレイティブな地域をつくるプロジェクト ステップ1. 農業に頼らない新しい農業の推進

●エフピコ環境基金

活動名：ゴミ拾いで河北潟流域めぐり

●サンライズ財団環境助成

活動名：ハッタミミズプロジェクト 子供たちと生態を解明し生息地を保全する、そして日本一長いミミズを育てる

●公益信託タカラハーモニストファンド助成

活動名：能登半島地震による河北潟湖岸植生の消失に関する調査及び保全再生活動

●未来につなぐふるさと基金

活動名：地震で大きな被害を受けた河北潟湖岸のエコトーン再生

●ドコモ市民活動団体助成

活動名：河北潟流域自然再生協議会の強化と震災復興の中での環境保全活動の具体化と実践

■ プログラム支援

●安藤スポーツ・食文化振興財団

第23回トム・ソーヤースクール企画コンテストに応募し、活動実施支援金をいただきました。

■ クラウドファンディングによるご支援

株式会社つり人社様よりクラウドファンディングによるご支援をいただきました。



LUSH Re:Fund Local助成金を活用した休耕地再生活動。



サンライズ財団環境助成金を活用した釣り体験と生物観察。



未来につなぐふるさと基金助成金を活用した湖岸植生調査。



エフピコ環境基金助成金を活用したゴミ拾い活動。

■ ボランティアによる活動支援

体験農地の整備、保全活動やイベントの実施運営等において、ボランティアの皆様のご協力をいただきました。

◎ おかげさまで30周年を迎えました



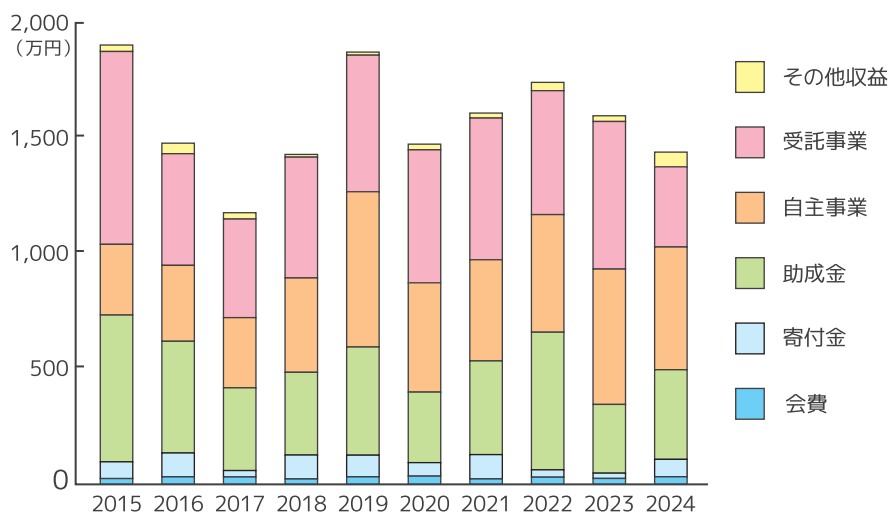
河北潟湖沼研究所は2024年で設立より30周年を迎えました。11月9日には吉倉交流館で30周年記念事業を開催しました。桂木健次氏による記念講演、現理事長の高橋と研究所所長の永坂による活動実績・研究成果報告、スタッフの川原と南葉による最近の活動報告を行い、今後の河北潟流域での活動を展望するディスカッションを行いました。河北潟湖沼研究所はこれからも地域のための活動を続けてまいります。引き続き活動へのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

2024年度決算報告

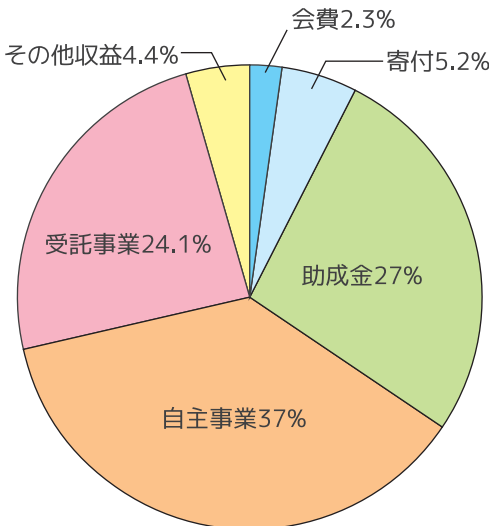
貸借対照表	
2025年3月31日	
項目	金額 (円)
資産の部	
【流動資産】	
現金及び預金	6,445,538
売掛金	2,109,938
未収補助金	500,000
商品 (元気米在庫)	1
立替金	5,203
未収入金	47,757
預け金	35,540
流動資産合計	9,143,977
資産の部合計	9,143,977
負債の部	
【流動負債】	
未払金	623,216
未払法人税等	71,000
未払消費税	171,900
預り金	110,426
前受助成金	2,780,000
流動負債合計	3,756,542
負債の部合計	3,756,542
正味財産の部	
【正味財産】	
前期繰越正味財産	6,796,613
当期正味財産増減額	△1,409,178
正味財産の部合計	5,387,435
負債及び正味財産合計	9,143,977

活動計算書			
自 2024年4月1日 至 2025年3月31日			
科目	特定非営利活動 にかかる事業	その他の事業	合計 (円)
【経常収益】			
受取会費	328,000		328,000
受取寄付金	753,763		753,763
受取助成金等	3,873,000		3,873,000
事業収入	8,773,554	2,220,472	10,994,026
受取利息	3,172		3,172
その他収益	632,480		632,480
経常収益合計	14,363,969	2,220,472	16,584,441
【経常費用】			
事業費			
人件費	7,962,458	1,721,710	9,684,168
その他の費用			
売上原価	1,564,142		1,564,142
材料費	182,407	954	183,361
租税公課	43,610	171,900	215,510
地代家賃	1,365,753		1,365,753
諸会費	48,000		48,000
諸謝金	420,542		420,542
リース料	408,674		408,674
印刷製本費	594,862	23,280	618,142
通信運搬費	311,377	3,655	315,032
外注・委託費	202,500	52,800	255,300
支払手数料	335,381	82,943	418,324
会議費	135,873		135,873
保険料	18,211		18,211
広告宣伝費	37,385		37,385
旅費交通費	459,940	171,667	631,607
車両費	76,403		76,403
消耗品費	1,488,724	37,468	1,526,192
その他の費用合計	7,693,784	544,667	8,238,451
経常費用合計	15,656,242	2,266,377	17,922,619
税引前当期正味財産増減額	△1,292,273	△45,905	△1,338,178
法人税・住民税及び事業税		71,000	71,000
当期正味財産増減額	△1,292,273	△116,905	△1,409,178
前期繰越正味財産			6,796,613
正味財産合計			5,387,435

経常収益推移(2015～2024年度)



2024年度 経常収益割合





河北潟湖沼研究所の活動は、皆様のご支援で成り立っています。
一緒に活動して下さる方、応援して下さる方を待っています。

会員になる

会員を随時募集しています。入会ご希望の方は下記連絡先までお問い合わせください。

会員種別	年会費	備考
正会員	個人(一般) 12,000円 個人(学生) 3,000円 団体 24,000円	※機関誌「河北潟総合研究」が年1回、 通信「かほくがた」が年4回届きます。 ※河北潟カレンダーがもらえます。 ※イベントや活動案内が届きます。
サポート会員	2,000円	
団体サポート会員	50,000円～	
ボランティア会員	無料	※イベントや活動案内が届きます。

寄付をする

ご寄付で当研究所への活動支援をお願いいたします。用途を指定してのご寄付も可能です。

- 郵便振替 ゆうちょ銀行(振替口座) 00730-1-48345
加入者名 特定非営利活動法人河北潟湖沼研究所
*通信欄に寄付金とご記入ください。ご住所とお名前を必ずご記入ください。
- クレジットカード 下記URLより決済ページにおすすみください。
<http://kahokugata.sakura.ne.jp/donation.shtml>



寄付ページ

購入する

ゆうぐれ金曜マルシェのほか、下記ネットショップで生きもの元気米や七豊米、すずめ野菜、河北潟総合研究等をご購入いただけます。

- カホクガタ <https://kahokugata.stores.jp/>
- 河北潟湖沼研究所のお米屋さん <http://kahokugata.cart.fc2.com/>



カホクガタ



お米屋さん

参加する

調査研究、保全活動、体験イベント等へのご参加をお待ちしています。活動情報は研究所ホームページやSNS、メルマガ等でご案内していますので、フォローや登録をお願いいたします。また日常活動へのボランティア参加もお待ちしております。メールや電話等でお気軽にお問い合わせください。



メルマガ登録



Instagram



X(旧Twitter)



facebook

NPO法人河北潟湖沼研究所(かほくがたこしょうけんきゅうじょ)

〒929-0342 石川県河北郡津幡町字北中条ナ9-9

電話 076-288-5803 fax 076-255-6941

E-Mail info@kahokugata.sakura.ne.jp

ホームページ <http://kahokugata.sakura.ne.jp>